

「自律心を持った品性のある女性」の教育

学長 中野 哲



偏差値重視教育により、知的に肥大した知識が暴走するとどのようなことが起きるかはすでに日本の東京地下鉄でのサリンによる無差別殺人の例を挙げるまでもなく、実証済みである。日本においては既に 100 年以上も前に新渡戸稲造は「品性は人の主なり、学は人の僕なり」と喝破しており、本学では徳育を頂点においた知育、体育のトライアングルから成る「自律心を持った、品性のある女性の教育」を教育基本理念としている。

この自律心と品性という 2 つのキーワードはいずれも他の動物に比べ、著しく発達したヒト大脳の前頭葉、なかでも前頭前野が健全でなければ成立しないものである。人間として「生きる意味」を理解し、自己鍛練することにより醸成されるからである。本学は既に短期大学基準協会による第三者評価を初年度に受け、文部科学省の教育 GP にも選ばれており、本学の教育環境の良さは実証済みである。なお、この 4 月から新しく総合教育センターが立ち上がり、教育基本理念をさらに徹底する動きが始まっている。すなわち、4 学科で学生諸君はそれぞれ専門の分野で勉強しているが全学生を横断的に基礎教養を従来以上に体得させ、短期大学士という学位に相応しい人間を育てようとするものである。大きな期待が寄せられている総合教育センターである。

総合教育センターの開設にあたって

現在、我が国の高等教育は大きな転換期を迎えようとしています。とりわけ少子化と M. トロウのいうユニバーサル化の影響を大きく受けた短期大学は、いづこもアイデンティティの確立と大規模な変革を余儀なくされています。

こうしたとき本学は、教育基本理念に基づいて質の高い短期大学士の育成を図り、地域貢献もより充実させていくために、教育活動に関する調査・開発・提案を行う横断的・総合的な機関として「総合教育センター」を開設しました。

センターは学長の命を受け、組織として活動するとともに、FD・GP・LS の 3 専門部会とも緊密に連携しながら、教育をより高める活動を行ってまいります。皆さま方のご協力とご支援をお願いいたします。

(センター長：矢田貝真一)



これまでのセンター活動状況の報告

【総合教育センター】

■教養教育に関する在り方の提案

1 年生に対して教養を高めることを目的とした共通科目について、学習支援 (LS) 専門部会の提言を受け、教務委員長とともに具体的に『総合教養演習』の授業設計を行い、

教職員懇談会で提案を行った。各学科の意見や要望を受けて、8 月の FD 研修会でさらに教養教育に対する検討を十分に深め、科目は来年度から実施していくこととしている。

■大学間連携の検討と準備

岐阜経済大学との大学間連携を検討するために、話し合いを継続して進めている。連携の内容として現在のところ、共通科目 (教養科目) および専門科目 (本学幼児教育科と岐阜大経済学部臨床福祉コミュニティ学科) の単位互換を柱に準備していくことが検討されている。(担当：矢田貝真一)

■学生による授業評価のこれまでのまとめと分析

4~6 月に本学データの収集を行い、紙ベース、テキストベース、紀要などにまとめたものを収集した。また、本学での実施内容と方法の確認と検討のために、全体のデータに目を通して、実施方法とデータの傾向を確認するとともに、データの分析方法を検討した。

6 月~8 月にデータの分析 (全体のデータ分析、一部データの経時的な変化の検討) と文献検索 (他大学で実施されている授業評価のレビュー) を行う予定。(担当：茂木七香)

■採用試験に関わる問題のデータベース化

前就職課において年度ごとに受験報告書としてまとめられている過去 5 年間 (平成 16~20 年度) のデータの収集、データベース化に向けた入力様式の決定、データの完全電子化、各学科・学生支援課と連携した活用方法の検討および LS 専門部会への資料提供を目指している。

この事業は、センター業務からの観点と学生支援 (就職支援) 業務からの観点でデータ活用の方法が異なるため、

現存データの活用目的を明確にすることが優先である。また、各学科、学生支援課と連携した活用方法については、主に就職活動の実践段階において役立つと考えられる。

現状から、学科の特性、学生の状況に合わせたきめ細かい就職支援の体制づくりが優先課題であり、LS 専門部会への資料提供については、『総合教養演習』の在り方とリンクして考える必要もある。
(担当：小宮佑樹)

【各 部 会】



■FD 専門部会

4月の第1回専門部会において、総合教育センターから平成21年度基本方針の説明があり、今年度はFDの仕組みを全てにおいて見直した上で、実施することとした。

①FD 目標：全教員から提出された「平成20年度 各自のFD 目標報告書」の分析を行い、それをもとに本学の全体的な1つの年度目標を挙げ、全体の目標に対し教員各自が具体的な目標をたてるとした。前期中に全教員に提示する予定。

②授業交流会：期間(時期)、公開する授業、交流の際の視点について今後見直しを行い、後期において授業交流会の実施を考えている。

③学生による授業評価：総合教育センターからの提案を受け、今年度前期は見直しの検討材料とすべく学生及び教員を対象にした「授業と授業評価に関する意識調査」を実施し、後期に「学生による授業評価」を実施することとした。

④FD 研修会：今年度は午前、総合教育センターから体験学習を含めた「授業改善を進めるために」の報告等、午後「教養教育と授業改善」「『総合教養演習』の在り方と実施案」の2テーマを中心にしたグループ討議を考えている。

(部会長：岩田千鶴子)

■GP 専門部会

4月の第1回専門部会で、平成21年度からの新しい組織(総合教育センターのもとにFD, LS, GPの3つの専門部会が設置され活動を行う)を確認し、GP専門部会としての今年度の方針を以下のとおりとした。

- ・教育GP関連：これまで通りの実践を行い、その成果を対外的に発表することを今年度の目標とする。具体的には『活動成果発表物(リーフレット)の作成』、『今年度までの取り組みをまとめた成果発表会の実施』に努める。
- ・新しいGPへの準備：来年度以降に取り組む新しいGPのテーマとして、学内の多方面から賛同を得られ、かつ実現可能な内容を検討し、応募への準備を行う。

5月の第2回専門部会では、GP関連の取組状況(子育てサロンの活動状況、その他GP関連の行事、視察など)に

ついて報告しあった。その後、「新しい短期大学教育を目指す教育プログラムの開発と推進・実施」に関して意見交換が行われたが、文科省の方針を共通理解した上で各学科で話し合い、再び部会で検討することを確認した。その他、成果発表物の対象とする取組内容、成果発表会の内容についても話し合った。
(部会長：役田 亨)

■LS(学習支援)専門部会

4月の第1回専門部会で、総合教育センターにFD(授業改善)、GP(教育推進)、LS(学習支援)の各専門部会を設置し、質の高い教育と学習を総合的に支援し、生涯学習に関わる研究を行う等の説明があった。

5月上旬の第2回専門部会では、教養科目の現状を考え、ほかに考えられる科目を提示。しかし、現状では大きな科目変更は困難と考え、現状の教養科目を「教養基礎」「語学・体育」「社会人スキル」(のちに「社会人基礎」と変更)に分け、名称を各科目教員に考えてもらうこととした。

5月下旬の第3回専門部会では「総合教養演習」の在り方について検討したが、開講にあたり様々な問題が予想され各学科会議で問題を討議することとした。

第4回専門部会では「本学における教養教育のとらえ方」を再検討することとしている。緊急に必要となる討議内容もあるが、今後は「入学前・初年次教育」「リメディアル・リカレント教育」「生涯学習」などを総合的に検討し、その結果としての実施案づくりを考えている。
(部会長：加納秀美)

本学教育の誇れるところ 改善すべきところ ①

◇本学に勤務して6年目となる。先輩方々の話から想う繁栄の時代と比較すると、学生募集という観点では衰微とまでいえないことも苦難の時代なのだろうか。

◇勤務して間もない頃の本学の印象は、良くも悪くも「学生に対して手厚い」ということだった。教職員と学生との距離が近いと感じた。それは現在も変わっていない。

◇四十年かけて醸成されたこの校風は本学の最も誇れるところだといえる。しかし、将来を思い、適正な距離を保ち、考える機会を与えていくことは大切だと考える。

(H)

